

## <第8回 江戸川区景観まちづくり賞：総評>

今回で第8回目を迎える景観まちづくり賞ですが、まちなみ建築部門からは11点の応募があり2点が受賞、まちづくり活動部門からは16点の応募があり3点が受賞という結果となりました。

(1) まちなみ建築部門の応募内訳は、住宅、美容院、保育園など小規模なものが4点、3階建ての低層集合住宅や戸建て住宅群が3点、6階建て以上の中高層集合住宅が4点という構成でした。

小さめの4点については、それぞれが建物前面の小広場を介して、街(コミュニティ)へ向けて何かを語りかけようとしている姿勢が印象的でした。中でも受賞作「hair foresta」は「手作りによって毎年少しずつ付け加えてゆく」点が特徴的だったと思います。

集合住宅など規模の大きな応募作も、街に対してそれぞれ何らかの貢献や語りかけを目指しながらも、規模の割にはもう一步、なかなか力およばずといったケースが多かったと思います。特に植え込みや樹木については、周辺の緑との連続性実現のために道路側に配置すること、緑化基準を満たすギリギリ最少限の植栽に頼るのではなく、最初は小さくても将来は大きく育つことの可能な余裕(樹木の周囲スペースや根回りの土量)を設けること、などが重要です。

広場全体のデザインとしては、見た目の美しさだけでなく「立ち寄ってみたいくなる魅力」や「とどまっていたい居心地の良さ」が重要で、これは規模の大小に関わらず重要な点です。そんな観点から、受賞作「ユー・グラシア」には、生け垣と樹木の適切な組み合わせ、メリハリある舗装面の表情、何箇所かに置かれたベンチなど、見た目の美しさに加えて将来へ向けての居心地の良さを期待させるものがありました。

なお別件でたいへん残念だったのは、優れた石と緑の広場を個性的にデザインしながらも、そびえ立つように高い立体駐車設備のためにそれが帳消しになってしまったケースです。この例に限らず、立体駐車場の周囲には十分な樹木や適切な壁を巡らせるべきであり、高さも圧迫感の少ない2～3段に抑え、それ以上を設ける場合には地下へ沈めるのが本来のあり方だと思えます。

(2) まちづくり活動部門の応募内訳はたいへんバリエーション豊かで広範な内容だったと思います。審査時に重視した点として、活動年数や頻度、参加人数や過去の応募回数に加えて、特に以下の3点をあげたいと思います。

- ・景観的な美しさだけでなく、人々の営みを表す活動や場所の記憶を呼び起こすような活動
- ・江戸川区らしさを伝えたり、探り出そうとする活動(伝統文化や産業の伝承と発掘)
- ・樹木や草花の育成・手入れを通して、より充実した景観生成へ向けての活動

以上の観点から、今回受賞したグループの活動内容には次のような特色がありました。

- ・「葛井さざなみ会」による海苔すき、田植え体験学習、餅つき(千本づき)の披露は、伝統産業や風習を呼び起こし、まちの記憶を未来へ伝えてゆく上で大きな力となりうる活動です。
- ・「江戸川ボート協会」によるボート教室や区民レガッタ開催は、江戸川区ならではの水辺スポーツの育成と伝承に大きく貢献する活動であり、景観にとっての重要な要素である賑わいを創出しています。
- ・「公園ボランティア・エコチーム」による区役所前庭の花植えと手入れでは、多くの人々の目に触れる場所を花で彩ることで景観向上に寄与し、また学校ウェルカムガーデンへのサポートは、子ども達への景観学習として貴重な活動です。

今後もぜひ、多様な活動について多方面から応募されることを期待したいと思います。